

シンポジウム報告

本項は、2021年11月6日立正大学社会福祉学会第23回大会において行われたシンポジウム「コロナ禍におけるソーシャルワーク・教育の在り方」について発表されたものに、当日時間の都合で発表できなかったものや新たな知見を加えて、報告書としてまとめたものである。

当日は、3人のシンポジストが登壇してシンポジウムを展開した。森田久美子氏は「コロナ禍におけるヤングケアラーの権利擁護とソーシャルワーク」、鈴木浩之氏は「コロナ禍における子ども虐待対応」、石橋昌雄氏は「コロナ禍の小学校の現状と課題」を発表し、新羅大学校社会福祉学科教授のチヨ・ウィス氏にコメントをいただいた。

ここでは、鈴木氏、石橋氏の報告を掲載する。